

たましいの気づき

医療とスピリチュアルの両面から
(江原啓之氏との特別対談)



9月28日、大田区立アプリコ大ホール(1500人)にて、スピリチュアル・カウンセラーの江原啓之氏を招いて、私のクリニック主催のスピリチュアル講演と江原氏と私の特別対談(その時のタイトルが表記のものです)を行いました。当日はお陰さまで、平日の雨天にもかかわらず、満員御礼となり、大きな感動と経験をもって終了することができました。江原氏にはもとより、ご来場を賜りました皆様、講演会を企画・実行に尽力してくれた全てのクリニックスタッフに心より感謝いたします。

第一部の江原氏の講演では、人生は旅、どれだけ込めて生きていくかが大切、たとえ現世で、周囲のみんなに嘘をついていても自分だけはだますことはできない、絶対、自分に正直に生きていくこと、そして生きる中では感情だけでなく理性も必要、そこに必要なのは内観すること。まさに気づきが大切。私が心に残ったフレーズを列挙してみました。込めながら、内観しながら理性をもちながら自分に正直に生きていきたいと、私のたましいの気づきでした。

第二部の私と江原氏の対談では、この世で生き抜くためには、たましいとそれが宿る肉体両方とも大切にして生きていきたいと思いますというのが、そのテーマの根底にあったものでした。

まず、病とは医学的には細胞が正常に機能していないこと、スピリチュアル的には3つの病の観方があることが確認されました。1)肉の病(過労、不摂生からくる) 2)思いグセの病、3)宿命の病(寿命)。この中で思いグセの病が一番多いとのこと。例えば、消化器の病を持っている人は、自分の人生を消化しきれない悩みや苦しみによってでるシグナル。

うつ病はスピリチュアル的な観点から見ると愛の電池が切れてしまうと、愛の誤作動からくる病。重症化して苦しんで理性がなくなってしまった方には、「あなたが必要だ!」と、愛を持って周りの人が引っ張っていくことが必要な段階もあること。

ク
ロ
ー
バ
ー
29号

Vol.8 No.2



発行人・・・くどうちあき

<http://www.kudohchiaki.com/>

〒一四三〇〇一六 東京都大田区大森北一-二三一-十
Tel・〇三-五七六七-〇二二六 Fax・〇三-五七六七-〇三二七

発行元・・・くどうちあき脳神経外科クリニック

認知症は、過去のトラウマの表出状態であり、その周辺症状として暴言を吐く人は、元気なころ言いたくとも言えなかったトラウマ、なんでも食べてしまう方は、食べることに悔いがあった方、徘徊する人は、何か逃げたい生き方だった。魂は生きている。怒ることをやらせてあげたい。毎日の介護は、してあげながら最後まで見守って、寄り添うこと。臨床医学からは思いつきもしない観方、まさにここにもたましいの気づきがありました。人間の体に、たましいが入るのはまさに受精の瞬間、体からたましいが抜け出し幽玄界に戻るのは、スピリチュアル的には脳死状態ではなく心臓が停止状態に陥った時。たとえ脳死になっても、人は最後まで 聴覚が残っている。脳死だったとしても、話している言葉は聞こえている。だから目の前の方にいっぱい話しかけてあげましょう。愛は脳から生まれるのではなく、心から生まれいずるもの。

終演時には、自分の生き方を顧みての瞑想(祈り)の時間を設けました。その時、江原氏から暖かい言葉がありました。瞑想は祈り、自分の魂が今、自分に必要なことを教えてくれる時。「ありがとう」必ず何かにお世話になって私たちは生きている。だから「ごめんなさい。」つつがなく生きていることが当たり前だと思ってしまうのですが、今、生きていることの実体自体が、たくさんのことに甘えてお世話になった結果であり、今があることを忘れてはいけません。生きていて ありがとう、そして、ごめんなさい。各人の意識と感謝によって、自分の中の愛の電池を充電できるとの内容でした。

この内容をこのコラムに書くにあたっては、一人のクリニックスタッフのブログの詳細な記録も参考にさせていただいております。今 私自身、あらためて、当日感じた私のたましいの気づきを、日々の生活の中でどのように実践していくか、実践していけるかを考えています。人間は感情の生き物、感情をどうやって理性でコントロールしていくか！ 本当に私自身も大問題です。講演会の後、たくさんの方からお手紙やメールにてご意見・感想をいただきました。たましいの気づきは皆さん三者三様。

しかし大事なことは、ご自分のたましいが気づいたら、自分のたましいに嘘をつかず、体を大事にメンテナンスをしながら、生き抜くことではないかと思えます。

みなさん、医療とスピリチュアルの両面から我々の生きるということを考えること、これは本当に大切なことだと思います。医療のみでも、スピリチュアル一辺倒でもけしてよいとはいえません。両方の良いバランスを保って、生き抜いていこうではありませんか！！

スタッフ マイ エッセイ

先日、マレーシアのボルネオ島に行ってきました。

亜熱帯なので暑いですが、酷暑が続いた今年の日本の夏よりは快適です。

身体も心もほぐれました。東南アジアの人達は、

いつもパワフルでエネルギー、パワーをもらいます。

今回、不思議な現象を見ることができました。水平線に沈んだ夕日の残光です。

真っ暗闇の広い海の水平線の彼方に、まるで隕石が落ちたかのような、オレンジ色の炎の光が、

揺らいでいたのです。それは夕日の残光でした。感動のあまり、暫く言葉を失い、

また自然の力強さを感じました。自然と共存して生きていることを改めて認識し、

環境問題に真剣に取り組まなければならないと思いました。



<小林>

森のアートツリー

「クリスマスツリー作り」

12月のクリスマス会に向けて、美術の時間では紙でクリスマスツリーを作っています。厚紙を緑色に塗り、三角形に折ったパーツを何個も組み合わせるとツリーの形に見えるように壁に取り付けます。

大きな緑色の半立体的なツリーが出来たところで、飛び出した三角形の先端にクリスマス飾りを付けてゆきます。そして勿論クリスマス飾りも手作りしました。市販のカラフルなプラスチックボールに白い羽を接着して作る簡単なものですが、とても可愛らしいものが出来ました。

12回で完成させるので、まだ出来上がっていないのですが、全てを組み立てると様々な種類の緑色を塗ったツリーの中に、飾りの金色や赤色のボールと白い羽がゆらゆらと揺れて、きつととても綺麗なものになると思っています。

デイサービスに参加していらつしやる皆さんに、クリスマスシーズンらしい作品を

観て楽しんで頂けたら本当に嬉しいです。

〈藤井 彩子〉



虹色の毎日

カラーセラピスト

からのメッセージ

☆12☆

2010年もあとわずか、師走になりました。やり残したことはありませんか？ 来年に向けて、今年最後も明るく元気にいきましよう。

今回のメッセージは、カラーセラピー・オーラソーマの来年のボトルからラッキーカラー、来年のテーマの色をお伝えさせていただきます。

来年のボトルは、2011年の数字を、一桁にして足し算をしていきます。

2 + 0 + 1 + 1 = 4

オーラソーマのボトル 4 サンボトル（イエロー／ゴールド）



サンボトルのサンは、英語で太陽という意味です。

私たちの毎日が太陽の光のようなキラキラと輝く笑顔になることを、応援してくれる色がイエローとゴールドです。

太陽はこの世にひとつしかないように、私たちひとりひとりも素敵な個性。自分らしさを大切にすることから、キラキラとした笑顔が生まれます！
なにをすることが好きですか？どこにしているとわくわくしますか？

新年のフレッシュさを味わい、素敵な年にしていましよう。〈石井 〉

院長コラム

27号

「道標」みちしるべ

クリニックを開設して、10年という歳月が流れました。10年という道標を無事通過できたこと、感無量です。この間、たくさんの方にお会いして、診察させていただきました。元氣になられた方、現在も闘病されている方。私自身も、患者さん、そのご家族の皆さまから元氣エネルギーをいただき、時にはお叱りを受け、叱咤激励されここまでこられたと感じています。本当に全てのことに感謝いたします。

今年のNHK大河ドラマでは、龍馬伝が放映されました。大きな夢をもって、人のために生き抜いた彼には私も熱いものを感じました。今年の医師会旅行で京都を訪れた時、暗殺される直前までかくまわれていた酢屋という材木屋の屋根裏を見ていただけに、とても身近に龍馬の存在を感じました。(余談ですが、酢屋の屋根裏から、あのよく見るセピア色の龍馬の着物姿の写真が出てきたそうです)各藩のため、尊皇攘夷のためだけでなく、もっと大きく広く考える彼の考え方は常に見習わねばと思います。まさに小我ではなく大我の愛を実践していたと思います。患者さんに接する時、またクリニックの運営でいつも、この小我と大我の愛の実践で悩んできた10年に、今また思いが巡ります。

爽やかな迫真の演技をしていた主役の福山雅治さんの最新のアルバム 道標 2010の歌詞に、とても心をうたれたくたぐりがありました。(福山さん掲載をお許しく下さい。)

わたしはその手が好きです ただ毎日をまっすぐ生きて

わたしたちを育て旅立たせてくれた あなたのその手が好きです

雨に打たれても土に触って ひとつひとつ種を蒔く背中

あきらめた夢もきつとあるでしょう だけどわたしには笑顔で

人に出逢い 人を信じ 人にやぶれて
人を憎み 人を赦し また人を知る
風に吹かれ 泣いて笑い 生きるこの道

あなたの笑顔 それは道標

風に吹かれ走っています

あなたがくれた この命の道を

自分をこれまで育ててくださった全ての方への感謝の気持ちは忘れません。特に親にはやはり何があっても、ありがとうの気持ちちがこみ上げてきます。いま、私を育ててくれた89歳になる父が、大病を患い闘病をしています。福山さんのこの歌に心をうたれたのは、育ててくれた父の後姿に、その詞がかさなったからのようです。今日のこの道標を通過できたのも、親の無償の愛があったことをヒシヒシと感じます。これからは、父からバトンを受け継ぎ、その愛を、私を取り巻いてくれている皆さんに注いでいかななくてはと思います。若き日の父の大きな背中が、今の小さくなった背の向こうに見える気がします。けして忘れません、大きな父の存在を。

2010年もあるという間でした。今年、年初の二つの目標であった日本認知症学会の専門医試験合格とクリニック主催の江原啓之氏との対談の成功をクリアでき自分自身は納得の年でした。しかし診療面ではまだまだのところもたくさんあり、皆様様に「迷惑をおかけしたところもままあります。来年に向けての反省とテーマを自分なりにみいだしております。

皆さん、よいお年をお迎えください！

お知らせ

9月28日、クリニック主催で行いました江原啓之氏との講演会純収益722,285円を全額、10月15日に「NPO法人元氣だ脳」へ寄付致しました。ありがとうございました。